

大人になる  
前を、綴る。

ご担当の先生  
(国語・社会など)へ  
ご案内

第26回 全国高校生エッセイコンテスト

# 17歳からの メッセージ

テーマ

- 1 今までの自分、これからの自分
- 2 推し活の中で見えてきたもの
- 3 今、これだけは言いたい! (自由課題)

応募内容

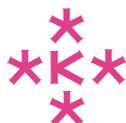
日本語で書かれたオリジナルの未発表作品に限ります。  
上記のテーマからいずれか1つを選んで500字程度  
(600字以内)のエッセイ(文体・形式は自由)としてま  
とめてください。

応募資格

**高校生**(高校生であれば年齢は問いません)

応募期間

**2026 4.1** 水 ~ **6.24** 水  
[必着]



大阪経済大学

OSAKA UNIVERSITY OF ECONOMICS

■後援 / 文部科学省、大阪府教育委員会、進研アド編集部

応募等に関するお問い合わせ先

「大阪経済大学 17歳からのメッセージ」応募事務局 TEL: (06) 6364-9005 (土・日・祝をのぞく AM10:00~PM5:00)

大学に関するお問い合わせ先

大阪経済大学広報課「17歳からのメッセージ」係 TEL: (06) 6328-2431 (土・日・祝をのぞく AM10:00~PM5:00)  
ホームページ <https://www.osaka-ue.ac.jp/education/koudai/17message/> Eメール [kouhou@osaka-ue.ac.jp](mailto:kouhou@osaka-ue.ac.jp)

# 17歳からのメッセージの魅力

## 生徒の自己理解と、先生の生徒理解の一助に

21世紀に入り絶えず変化し続ける世の中で、高校生たちは何を思い、何に悩み、何を目標に生きているのだろう。

大人でも子どもでもない今だからこそ発せられる言葉……その声を聞いてみたい！ そうした思いから2001年に始まった「17歳からのメッセージ」は、2002年9月の大阪経済大学創立70周年記念事業のひとつとして生まれ、これまでの25年間で約71.5万通のメッセージが届けられました。

生徒たちは自分や社会を見つめ直し成長していくきっかけになる、先生方にとっては生徒たちの“今”を知る機会になる、

若者たちが希望を持てる社会をつくるために、ぜひ「17歳からのメッセージ」にご参加ください。

### 第21回～第25回 応募総数・参加校の推移

### 25年間に届けられたメッセージは約715,000通!

#### ■ 応募総数の推移



過去5年間の応募数は  
毎年約**30,000**作品

#### ■ 応募校の推移



過去5年間の参加校は  
毎年約**500**校

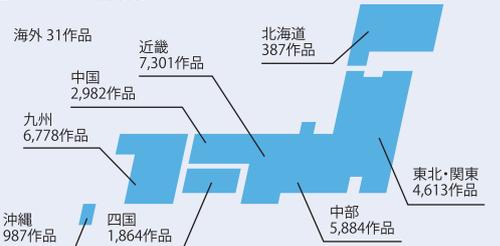
### 読売新聞紙面と大阪経済大学HPで受賞者・受賞作品を発表

### 第25回応募状況



■ 応募総数 **30,827** 作品 ■ 参加校数 **542** 校

#### ■ 地域別応募作品数



#### ■ テーマ別応募作品数



テーマ1とテーマ3は  
20年以上を経ても変わらず  
高校生のリアルな声を届けて  
れています。第25回のテーマ2  
【自分にとって「海外」とは】  
にも多くの応募がありました。

読売新聞紙面で  
受賞者や受賞作品を  
発表します。  
※匿名も可能です。

あした踏み出す第一歩

人生の指針

「分かりやすさ」の恐ろしさ

学生審査員賞 死なないで高校生

学校特別賞大賞 大阪学院大学高等学校 (大阪府)

VUCA時代の羅針盤

言葉と「これからの私」

独創的な七色の光

### 全受賞作品を収録した作品集を発行



全受賞作品を収録した  
作品集を進呈します。  
同世代の声に共感しながら  
自分を見つめ直す機会に  
なります。



### 応募者全員に 参加賞進呈

大阪経済大学オリジナル  
A5ノートを進呈します。  
※写真はイメージです

### 読売新聞グループで 記事制作を担ってきた プロも審査

### 審査員(本学教員)が 学校を訪問し

### 表彰状授与と講評を実施

※グランプリ・金賞受賞者の在籍校

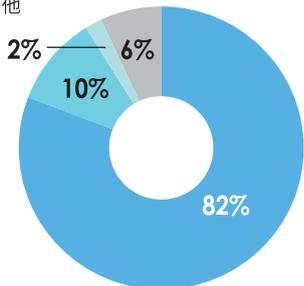
# 国語・社会などの授業で活用



授業や連休中の課題、部活動などで活用  
生徒の成長や、生徒を知るきっかけに

## 取り組み方法 ※2025年アンケートより

- 国語・社会などの授業
- 連休（GWなど）の課題
- 文芸部などの部活
- その他



## ■参加校での取り組み例

### 取り組みやすい字数・テーマで書くことが苦手な生徒のやる気を引き出す

テーマは3つ。20年以上固定の「今までの自分、これからの自分」「今、これだけは言いたい!（自由課題）」は高校生にとって普遍的なテーマです。毎年変わるテーマ2は、社会情勢を反映しタイムリーに設定。500字程度で取り組みやすく、さまざまな教科で活用されています。

### 生徒への理解を深めるきっかけに

募集のタイミングが新年度スタートと同時期なため、生徒理解を深めるきっかけとして多くの学校で活用されています。国語科の先生が感動し、担任の先生にも読んでもらったケースや、「自由に勇気をもって書いた様子が伺えた。本音がここにあったのかという新鮮な気持ち」といった声が届けられています。

### 自分と向き合うことで生徒自身の成長に

作品を書くなかで生徒自身が自分を見つめ直し成長につながっています。参加校からは「高校生の『今』と『これから』を考えさせるのに適している」との評価や、「ささやかな日常の中に自分らしい生き方を確認し、自信につなげてほしい」といった声もいただいています。

# エッセイの書き方



500字程度の取り組みやすい文字数で  
生徒のやる気を引き出します

## 1 書く目的やテーマを明らかにする

「こういうことを伝えたい」「こんな思いを読者と共感したい」など、**何のために書くのか“目的”を明確にしてみましょう。**エッセイとは、自分の思ったことや感じたこと、体験したことを自由な形式で書いたもの。ただ経験があっても、興味がないと書くのは難しいので、**自分が一番好きなテーマを選ぶことが大切です。**

## 2 書きたいことをリストアップする

「実際に体験した出来事」「考えたこと、感じたこと」「伝えたいメッセージ」などから、**書きたいことを洗い出しましょう。**まとめる際に起承転結は必要ですが、順番は自由です。「家族に感謝を伝える」「同じ趣味を持つ人とその楽しさを共有したい」など、**対象を明らかにすることで、伝わりやすい文章になります。**

## 3 自分らしい表現で本文を書く

難しい言い回しよりも、自分の言葉を使った方が読み手に伝わりやす。かじこまった感じ、やわらかい感じなど、自分が表現したい雰囲気やイメージすることを心がけましょう。体験したことだけでなく、体験して**「どんなことを感じたか」「今後どうなりたいか」**を書くと、表現に“おもしろみ”や“深み”を持たせることができます。

# 第26回 全国高校生エッセイコンテスト 17歳からのメッセージ

## 応募要項

テーマ

- 1 今までの自分、これからの自分
- 2 推し活の中で見えてきたもの
- 3 今、これだけは言いたい! (自由課題)

応募内容

- 日本語で書かれたオリジナルの未発表作品に限ります。
- 上記のテーマからいずれか1つを選んで500字程度(600字以内)のエッセイ(文体・形式は自由)としてまとめてください。

応募資格

**高校生**(高校生であれば年齢は問いません) ※日本語であれば、海外からの応募も可能です。

応募期間

**2026 4.1(水)~6.24(水) [必着]**

応募方法

**[団体での応募]** 専用の応募用紙と団体応募シートに必要事項を明記して1枚添付のうえ、下記宛に送付ください。

送付先

- 郵送/〒530-0055 大阪市北区野崎町5-9 大阪読売サービス「大阪経済大学 17歳からのメッセージ」応募事務局
- FAX/(06)6366-1977「大阪経済大学 17歳からのメッセージ」応募事務局 ※作品の返却はいたしません。

賞

**グランプリ(3作品): 教育奨学金5万円 金賞(9作品): 教育奨学金3万円 学生審査員賞(1作品): 教育奨学金1万円**

- 他、銀賞: 図書カード5千円分 奨励賞: 図書カード2千円分(計138作品)を授与します。なお、各賞の受賞数は変動する場合があります。
- 多数応募いただいた高校を対象に、学校特別賞(30校)を授与します。
- 入賞作品の著作権は大阪経済大学に帰属します。学校名・氏名・入賞作品は新聞、冊子、WEB、その他の制作物等で発表します。※匿名も可能です。

審査基準

- 文章の表現技術そのものよりも、テーマや視点、切り口に表れるオリジナリティを重視します。
- さらに、書き手の意図が明確であり、第三者が納得できる形で伝えられているかを評価します。

審査員(予定)

大阪読売サービス(株)、(株)進研アド 編集部長、大阪経済大学学長、大阪経済大学教員など。

発表(予定)

**2026年9月30日(水) 読売新聞大阪本社版朝刊(近畿・中四国 ※山口県を除く)・大阪経済大学HP**

- 団体応募での入賞はご担当の先生へ、個人応募での入賞はご本人へ通知します。
- 応募していただいたすべての参加校、参加者に受賞作品集と参加賞を発送します。

表彰

**受賞者には、表彰状とその他一式をお届けします。**

○グランプリ・金賞受賞者が在籍する高校は直接訪問のうえ、表彰を行う予定です。

「応募用紙」  
「団体応募シート」の  
ダウンロードは  
こちらから!



盗作や不適切な引用、AIの悪用等があった場合、「審査対象外」となります。生徒自身の言葉で表現するよう、ご指導ください。

## 個人情報の取り扱いについて

### 1.利用目的と収集について

記入いただいた個人情報は当企画の運営上必要な範囲で利用します。

### 2.管理について

本学では、個人情報の紛失・滅失・毀損・改ざん・漏洩および不正利用がないよう厳重に管理し、外部からの不正アクセスにも防止策を講じます。また、本学教職員等への教育・研修に積極的に取り組みます。

### 3.第三者への提供について

本学では、収集した個人情報を本人の許諾を得ずに第三者へ提供しません。ただし、法律の定める例外事項については、本人の許諾なしに情報を提供する場合があります。(例外事項については、個人情報保護法 第二十三条第一項から第四項をご参照ください)

### 4.委託について

本学からの送付物など個人情報を取り扱う業務の全部、または、一部を外部に委託する場合、契約等により委託先にも本学と同様の安全管理措置を徹底するよう義務づけています。



## 2025年 第25回 グランプリ3作品

第25回  
作品集は  
こちら



テーマ  
1  
今までの自分、  
これからの自分

### あした踏み出す第一歩

匿名希望

「はじめまして。」夫と死別したシングルマザーに迎えられ始まった学校派遣の英国研修9日間。彼女はナイジェリア移民だ。子どもは、部屋にこもりぎりの17歳の長男、そして12歳、9歳、1歳の娘たちの4人兄妹。これが私のホストファミリーだ。母親は仕事で忙しく、終始12歳と9歳の娘が赤ん坊の世話をしていた。まさかのヤングケアラーと過ごす9日間。一番の敵は自分の嫉妬心だった。一緒に渡航した校友たちのホストファミリーとの楽しい時間について聞くと、正直心がざわついた。それを羨む自分のことも嫌だった。

帰国前夜、9歳の子が私に「音読するから聞いて。」と隣に座って可愛らしい声で国語の教科書を読み始めた。声を聴いているうちに

喉の奥がきゅうと苦しくなり涙があふれた。この子はどんな大人になるのだろう、そして、私はどんな大人になるべきだろう。最後に皆で食事をした際、移民の苦勞について話す母親の疲れた表情が私に火をつけた。ハロックスが何だ、ハリボタが何だ。私はこの移民の家族から素晴らしい人生の目標をもらった。これぞ学び。戻ったら志望学部をすぐに変更だ。今頃!と怒られてもいい。家族について、移民のいる社会について、身近な所から、最後は世界の隅々まで学ぶと決めた。

私は帰国後、町の学習ボランティアに登録した。明日がボランティア初日。小さなことだが、これが今の私に踏み出せる第一歩だ。教える子に笑顔になってもらいたい。



テーマ  
2  
自分にとって  
「海外」とは

### 人生の指針

大阪府立工芸高等学校 (大阪府) 小澤 未悠 さん

私は狭い世界に生きてきた。授業で英語を学ぶだけで、当然海外に興味など無かった。そんな私は日本食のお店でアルバイトをしている。雰囲気の良い店で、自然と観光客が利用してくれる為、私にとってそれが海外のことを考えるきっかけになった。

ある日私は、雨で外に出られないお客様に、温かいお茶を出していた。その時、ある観光客のおじいさんが、カタコトの日本語で「すみません、注文してないです。」と私にお茶を返してきた。私もカタコトながら、サービスだと説明した。すると、おじいさんは目を輝かせて、スマホを取り出し、雨が降っている北西ヨーロッパの街並みの写真を見せてくれた。本当に綺麗な写真に、私は素直に心を打たれていた。

おじいさんはにっこり笑って、こう言った。「私は、ここから来ました。雨が多いです。日本に来る夢、やっと来れた。でも、雨です。けど、温かいお茶、気持ち、ありがとう。だから日本が好きです。ありがとう。」その後おじいさんは、狭い世界を生きている私に、広い世界の話をたくさんしてくれた。

日本の文化に触れた時の、観光客たちのそれぞれに輝く目をみる経験は、一度だけではなかった。その度に、私も海外に行き、いろんなものをみたい、という気持ちが強くなっていった。まず最初は、おじいさんが見せてくれたあの写真の場所に行きたい。世界のさまざまな場所へ行くことは、今や私の人生の指針になっている。



テーマ  
3  
今、これだけは  
言いたい!  
(自由課題)

### 「分かりやすさ」の恐ろしさ

山形県立致道館高等学校 (山形県) 高田 絢音 さん

誰でも簡単に、速く情報を手に入れることができる現代。私達は今、情報の「分かりやすさ」に囚われすぎではないだろうか。動画サイトでは一分未満の動画で溢れている。すぐに認識ができて分かりやすいことは、果たして良いことなのだろうか。

私が中学生の時、一学年上の先輩達が、校則を撤廃した。理想の姿をスローガンで提示して、あとは自由になった。それから三年後、高校二年の時に、地元の新聞で母校の様子を知り、驚いた。生徒達はスローガンを分かりづらいつと捉え、新しく基準を作ったという。

この髪で良いか、この靴下で良いかと、私達は自分で考えて、登校していたものだったが、今の生徒達は、他人が勝手に決めたルールに

のっとり、思考するチャンスを失ってしまった。今を生きる現代人は、やはり分かりやすい方に流れてしまう。何でもかんでも、パッと済む方が楽なのであろう。しかし、私達は立ち止まって考えてみるべきだ。SNSで見た誰かの意見を鵜呑みにしてすぐ拡散してみたり、他人から基準を作ってもらった状況は、自分の意志が何もないということだ。私達はいつの間にか個性を發揮できない窮屈な世の中で生きることになる。

思考するチャンスを絶対に手放さない。これが情報社会に生きる人間に必要なことになるかもしれない。SNSを開けば、他人がすぐ側にいる。でも主役は自分だ。考えて、考えて自分の思いを貫きたい。

#### ◆ 金賞9作品

■テーマ1 明日を作る／遅刻ぐせ

■テーマ2 歴史の隣に立つ／正しさを脱ぐ

■テーマ3 死なないで高校生／あの標識の下で、また／オタクが物申す／ノスタルジックな香り／無知は罪じゃない!



## 2024年 第24回 グランプリ3作品

第24回  
作品集は  
こちら



テーマ  
1  
今までの自分、  
これからの自分

### 一万度を触って

鹿児島県立大島高等学校（鹿児島県）吉村 龍馬 さん

私は、一万度の物体を触った…。しかし熱くなかった。  
私は、小さい頃から人見知りだった。初対面の人ほどに笑顔あふれる人でも怖い人だと思ってしまう。だから自分から話しかけることは中学三年生までの十五年間一度もなかった。そして私は行動できない人間だと自分から行動することをあきらめかけていた。  
そんなある日、私は、科学の講話を聞きに行った。そこでプラズマを発生させる実験を見た。プラズマの発生温度は約一万度と、とても触れるものではないと思った。しかし、講師であった研究者は、「このプラズマを発生させた蛍光灯のような実験器具は触れます。誰か触りたい人はいますか。」と言った。

私は思った。ここで触れなければ二度と触れないと。その気持ちは私をつき動かした。私は手を挙げ、前にでた。触る瞬間、不安がよぎった。しかし手をぐっと伸ばし物体を触った。物体は熱くなかった。きっと熱くなかったのには理由があるだろう。でもこんなことは、行動しなければ分からなかった。

私は、これまで行動できなかった。なんならあきらめかけていた。しかし、行動したいという強い気持ちがあれば行動できると分かった。これからのことなんか何一つ分からない。そんな中でも私は、たくさんたくさん行動していきたいと思う。この気持ちの熱量は、一万度なんか軽々と越えている。



テーマ  
2  
自分にとって  
「スポーツ」とは

### 人生の光

沖縄県立鏡が丘特別支援学校（沖縄県）平田 青 さん

私にとってのスポーツは「他人のもの」だった。障がい者には権利も舞台も用意されていない。テレビで見たパラリンピアンはケガを負いパラリンピックに出場せざるを得なくなったスポーツマン。元から障がい者の自分には全く関係のない話。画面に映る懸命な姿に、そう考えてしまう自分が嫌になった。そして、いつの間にか自分の中からスポーツを排除し、消し去ろうとしていた。  
そんな自分を気かけ、両親は中学から遠くにある特別支援学校に入学させてくれた。そこは部活動に力を入れている学校だった。私はそれまでの悔しさを晴らすため、人生で初めてスポーツに挑戦

しようと決心し、ポッチャ部に入部した。それからはこの競技の魅力にはまり、頭の中はポッチャでいっぱい。仲間との練習が待ち遠しく、先輩の技をまねたり、プロの動きに合わせてみたり、ポッチャ漬けの日々を過ごした。

入学から一年後、私は全国大会出場の選抜メンバーに選ばれた。予選を乗り越え、海も越え、東京での決勝大会。初めての大舞台に武者震いしながら、チームメイトと作戦を練り、魂を込めて一球一球を投げる私にとって、スポーツは「自分のもの」になっていた。  
そして今、私の人生に光を当てる存在がスポーツだ。



テーマ  
3  
今、これだけは  
言いたい!  
(自由課題)

### 脱基準

栃木県立宇都宮女子高等学校（栃木県）真部 凜 さん

「お巫山戯」が、私には読めなかった。文芸部で小説の校閲をしていたときに現れた難読漢字。私は漢字が得意だと自負していたが、初めて同級生にその鼻を折られた。書いた本人は「おふぎけ」と読むのだと言って、「読めない?」と驚いた表情を見せた。その様子に私は面食らった。  
同じクラスの彼女とは部活動以外でも関わるようになった。小論文コンテストに誘われたり、希望制の土曜講座と一緒に参加したりした。相変わらずの表外漢字にお堅い語彙、知らない文豪の名前、その人の裏話、ことごとく彼女から教わった。ランボーという詩人の詩集を持ち歩く彼女は、世間が言う高校生という枠の中にはいないように感じられた。

「高校生らしくてよい。」と言う人がいる。果たして彼らには、彼女の魅力が伝わるのだろうか。それくらい分かる、と言うかもしれない。ただ、彼女が紡ぐ文章に、瑞々しくフレッシュなものは少ない。それは大人びて、ときに堅い言い回しが連なる文章だ。彼らはそれを、飾っている、背伸びしていると決めつけやしないだろうか。彼女の素を素として受け入れてくれるのだろうか。

彼女と出会って、私は「高校生らしさ」という基準の無意味さを知った。それを持っていると、ある特定の個性を排斥してしまう。手放せば、もっと色とりどりの魅力が見えるようになる。だからあなたがその基準の中にいるなら、今すぐ脱してほしい。

#### ◆ 金賞8作品

- テーマ1 「優しい」だけにはならない／「アナタのオカゲ。」／青春
- テーマ2 父とハンドボール／自分にとって大切なもの
- テーマ3 背中を押して手を引くこと／美容室に行ってみた／お母さん、お父さん

# 団体応募シート

記入不要	受付番号					
	高校コード					
	管理コード					

## 【応募の際のお願い】

- この団体応募シートは、学校やクラス単位などで応募される場合、応募作品に添付いただくものです。  
**1団体につき1枚ご添付**ください。複数必要な場合は、コピーしてご使用ください。
- 応募用紙のテーマ番号・題名などの**必要項目を必ず記入**いただくよう、ご指導ください。
- 入賞された生徒の作品は、新聞、冊子、WEB、その他の制作物等で発表します。  
「氏名」「高校名」の公表を希望されない場合は、応募用紙の該当する設問欄にチェックするよう、ご指導ください。
- 日本語で書かれたオリジナルの未発表作品に限ります。
- 盗作や不適切な引用、AIの悪用等があった場合、「審査対象外」と**なります。生徒自身の言葉で表現するよう、ご指導ください。

## 応募者が入賞された場合、代表の先生にご連絡いたします。

先生のお名前	フリガナ	ご担当科目
先生のメールアドレス	@	
高校名	電話番号	( ) -
高校の住所	〒	都・道 府・県
応募作品数	合計	作品内訳 (1年 作品 / 2年 作品 / 3年 作品)
受賞作品集 必要部数	部	※応募していただいたすべての参加校、参加者に受賞作品集を郵送いたします。 ご記入がない場合は応募作品数分郵送させていただきます。

## 【以下のアンケートへご協力をお願いいたします】

※該当する項目の□にチェックを入れてください。

① 本コンテストはどの場面で取り組みますか？

- 国語・社会などの授業   
  連休(GWなど)の課題   
  文芸部などの部活  
 その他( )

② ①で「国語・社会などの授業」と答えた方に質問です。どの教科ですか？

- 国語   
  地理歴史   
  公民   
  家庭科   
  総合的な学習／探究  
 その他( )

③ 本コンテストをどのように知りましたか？(複数回答可)

- 以前より知っていた   
  DM(ご案内)   
  DM(FAX)   
  新聞(読売新聞)  
 勤務校の先生の紹介   
  勤務校以外の先生の紹介   
  大阪経済大学ホームページ  
 その他( )

ご意見・ご要望などございましたら、お聞かせください。

---



---



---

ありがとうございました。